

元祖 石川書店 WEB版

令和2年度 愛知教育大学附属岡崎中学校

読書だより

『たけのこの里の派ですが、
さいま、けきのこの山』に育入
ていこう。

第8話 R02.05.07(木)
「誰もが幸せを実感
できる世界がいいな。」

★今回、紹介する本は、『神様のピオトープ』（著/ 風良ゆう、出版/講談社タイガ）です。

『流浪の月』という作品で、2020年の本屋大賞1位をとった風良ゆうさんの3年前ぐらいの作品。世間の正しさや常識に苦しめられている人々の心にしっかりと寄り添ってくれるような小説です。

主人公の女性・うる波は、事故死した夫「鹿野くん」の幽霊と一緒に暮らしている。という設定からして「普通」ではありませんが、この二人と、さまざまな人との交流を1話完結で描いています。

ロボットの親友をもつ少年、少女を一途に愛する青年、同級生をストーカーする高校生など、秘密を抱え、生きづらさや不安をもっている人物とのエピソードが非常に魅力的。「正しさ」や「常識」にあふれる不自由な世界の中で、幸せを感じる方法を教えてくれる1冊。



流浪の月にもつながる世界観。

「正しさ」や「常識」
に苦しめられる人々
をわかちあわせよう
人にならな。

『もともと幸福にも
不幸にも、決まった
形などないのだから
(P.285)』

一人一人、何が幸せで、
何が不幸か？
全然ちがうよ。
みんなちがうんだよ。

人間とかロボット
とか、幽霊とか！
いろいろな人たちが一緒
にいられた世界をつくる。
(P.145)』

「多様性」って簡単に口にはできると。むしろいいよね。